

# 笠松町120年の

～ 木曾川の流れと共に



笠松町長 広江 正 明

笠松町は平成21年7月、町生誕120年の節目を迎えました。

先人たちが今まで笠松町発展のために苦難に耐えながら築き上げた偉業に感謝するとともに、未来への礎となるまちづくり創造の年と位置づけて、「木曾川の流れと共に 未来へ続け!笠松町」のスローガンのもと、各種の記念事業を展開しており、11月1日には「笠松町生誕120年記念式典」を開催します。



緑豊かな笠松みなと公園

この120年記念事業をきっかけとして、町民の皆さんに改めて町の歴史を振り返っていただくとともに、活気ある

未来の笠松町について考えていただき、皆さんとともに新しいまちづくりを進め、笠松町の豊かな自然や人々に育まれてきた文化や伝統を町内外へ発信していきたいと考えています。

また、次世代を担う子どもたちをはじめ、全町民の皆さんを対象に、社会に貢献しようとする精神を育み、道徳心やマナー、ルールを大切にする心温まる風土、人づくりを推進し、「道徳のまち笠松」を目指し、次世代に継承されていくことを願っています。



大名行列お奴(県重要無形民俗文化財)

## 明治

- 22年 ・町村制施行(笠松町誕生)
- 24年 ・濃尾大震災がおこる
- 30年 ・円城寺村・中野村・無動寺村・江川村及び米野村が合併し「下羽栗村」が誕生
- ・田代村・長池村・北及村及び門間村が合併し「松枝村」が誕生
- 39年 ・笠松町役場庁舎を県町から現在地に移転改築
- 43年 ・木曾川橋が架設される



濃尾大震災で焼け野原となった下新町

## 大正

- 3年 ・美濃電気軌道により、新岐阜～笠松間に鉄道開通
- 9年 ・第1回国勢調査実施(笠松町5,689人、松枝村2,433人、下羽栗村2,201人 計10,323人)
- 15年 ・郡役所廃止
- ・県立第一工業高校(現県立岐阜工業高等学校)の授業開始

## 昭和

- 4年 ・天皇陛下即位を記念し、役場庁舎を建築・完成
- ・岐阜～名古屋間に名岐鉄道の直通電車が開通
- 9年 ・笠松競馬場設置
- 13年 ・新町箕浦方に隕石が落下
- 16年 ・太平洋戦争が勃発
- 18年 ・戦争の影響により、笠松競馬が中止となる
- 20年 ・終戦
- 22年 ・第1回公営競馬開催
- ・新学制施行(6・3制)により、笠松中学校開校
- ・上羽栗村と下羽栗村で「組合立羽栗中学校」開校
- ・松枝村と柳津村で「組合立蘇西中学校」開校
- 23年 ・「笠松女子職業学園」開設(昭和24年に「笠松刑務所」と改称)
- ・「公民館」設置
- 25年 ・松枝村と合併



昭和4年頃の笠松町役場